

京美術
Kyo Bijyutsu

KUNST ARZT では、33 回目となるアーティストキュレーション展である「京美術」展を開催します。

10 年前の 2012 年、ギャラリー最初の展覧会である「美術のくすり」展の出品作家でもあった岡本光博、木内貴志、現代美術二等兵の 3 組に開廊後にデビューした山羽春季、ゆりかきの 2 組のアーティストを加えた 5 組による「京都」をテーマにした展覧会です。

ユーモラスに脱力的にアートの定義を問う試み、性的な試みや社会的なメッセージを内包する試みなど、歴史的文化的に厚みのある京都だからこそ、自由に発信し続けることができたと思っています。

本展では、「京都」をネタに、感謝の意を込めて、ユーモラスでちょっと毒のある薬を提供できればと考えています。

岡本光博 (KUNST ARZT 主宰、美術家、本展キュレーション)

現代美術二等兵
やぶさめオルゴール
2013



出品作家

岡本光博 / OKAMOTO Mitsuhiro
木内貴志 / KIUCHI Takashi
現代美術二等兵 / Gendaibijyutu Nitouhei
山羽春季 / YAMABA Haruki
ゆりかき / YURIKAKI

2022 年 12 月 16 日 (金) から 25 日 (日)

12:00 から 18:00 月曜日休み

会 場 : KUNST ARZT

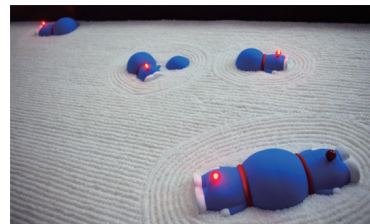
605-0033 京都市東山区夷町 155-7 2F

京美術

Kyo Bijyutsu

運営、企画者でもある 岡本光博（1968 年京都生、京都在、滋賀大学大学院修了）は「京都」をネタにした言葉遊びの連作の他、継続している実在する枯山水庭園を引用した新展開の予定。

www.okamotomitsuhiro.com



木内貴志（1973 年京都生、京都在、成安造形大学洋画クラス卒）はコツコツと収集してきた「京都」的イメージを「京都テレビ借景（借りパク京都）」（仮題）という作品に落とし込む構想。「京都」という絶対的なイメージだからこそ、その解体、再生を。

www.kiuchism.com



現代美術二等兵 は、籠谷シェーン（1967 年大阪生、大阪在、京都市立芸術大学彫刻専攻卒）と、ふじわらかつひと（1968 年、大阪生、東京在、京都市立芸術大学彫刻専攻卒）からなるアートユニット。

これまでも「京都慕情」（2013 年、Voice gallery）、「京都五輪」（2021 年、Y-Gion）において、「京都」をネタに、クスッと笑える“駄美術”を展開してきました。

<http://www.g-b-2.net/>



アイドルとして、所縁のある土地をテーマに作詞、作曲、プロモーションビデオ（PV）を作品にしてきた ゆりかき（1996 年滋賀県生、神奈川在住、成安造形大学卒）。世界的観光地である「京都」をテーマに新曲 PV の展示予定です。

<http://kunstarzt.com/Artist/YURIKAKI/YURIKAKI.htm>



昨年から継続して、京都の神社仏閣の奉納のための舞や伝統行事の踊りの動きを取材し、絵画化してきた日本画家である 山羽春季（1995 年京都生、京都在住、京都精華大学日本画学科卒）。本展でも『六斎念仏踊り』の取材から制作した新作を発表予定。

<http://kunstarzt.com/Artist/YAMABA/Haruki.htm>

